

海を愛し漁民を愛し

故山田岸松氏
 その人柄と功績を偲びつつ、氏の歩んでこられた道を簡略にたどると……

情熱を注ぐ

とる漁業からつくり育てる漁業へ

架橋視察
▼(昭和48年)



▲公害問題で中央視察団に陳情(昭和47年)



▲兵庫県漁民物故者合同慰霊塔開眼供養(昭和51年・高野山)

漁業界はさまざまな公害問題や石油パニックに直面し、不安な環境下に置かれたとき、全国でも例をみない漁業界はさまざまな民物故者合同慰霊事業を走着させ、漁民の心をやわらげることにより力をつくされた。

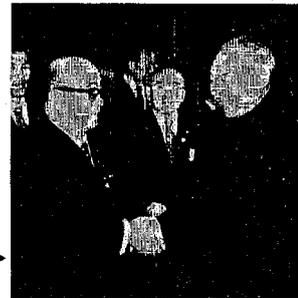
スナップで歩みを綴る

公害被害救済で
 県議会に陳情



(昭和48年)

兵庫・徳島県漁民友好
 訪中団天津市訪問



天津市長と握手(昭和50年)

第2回全国豊かな
 海づくり大会
 (昭和57年・香住町)



▲兵庫のり研究所竣工(昭和61年)



▲関西国際空港建設に係る漁業補償調印式(昭和61年・神戸市)



▲三漁連合併調印式(昭和61年)

山田岸松氏に
 感謝する集い
 (昭和62年・神戸市)



青年部・洋上大学参加者より感謝の贈呈(昭和62年)



瀬戸内海環境保全で石原長官に陳情(昭和62年・神戸市)

漁業振興の確立をめざし……

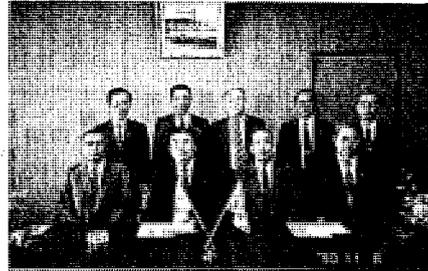
韓国水協中央会季方編会長が来神 県漁連へ表敬訪問



▲季水協中央会長と西部県漁連会長が握手
▼両会長の握手が関係者の皆さん

去る、十一月八日、韓国水協中央会長の李方錦氏、同会理事の金聖錫氏、同じく調査部長代理の李炳海氏の三名の一行が、県漁連に表敬訪問のため来神されました。

これは、一昨日の六日、全漁連で開催された定例日韓全漁連・水協中央会会長会議を契機に、本県水産業の現状、業概要の説明をする一



方、両国水産業の発展に関連する諸問題についての懇談が行われました。また、この一行は水産物流施設の視察をするため、神戸市漁協を訪れ、セリ市や加工施設を見学されました。

県下漁協婦人部幹部 研修会開く 68名が出席



講演する佐野氏

去る十月二日、三日の両日、神戸市立国民宿舎須磨荘において、兵庫県漁協主催の平成二年度兵庫県漁協婦人部幹部研修会が、漁協婦人幹部六八名の参加のもと開催されました。

一日目は、(勅兵庫県水産振興基金の佐野義勝業務課長の講演で、「水産新領域開発事業」をテーマに、ウオーターフロントの活用事例と漁業について)を題して、ビデオ上映及び補足説明がありました。このビデオ

普及活動に留まらず、戦後間もない頃の婦人部活動から現在に至るまで、様々な活動実績を提示し、今後の婦人部活動に対する呼びかけを活動として作成した、普及啓蒙ポスターを掲

お招きした島根県漁協婦人部連合会の土田信子会長からは、「天然石鹸普及活動について」高根県漁連の活動を生かして、会場一杯の輪になって三日程練習

講演する土田会長

第3回 日韓漁村 婦人生活体験発表会 神戸市立水産会館(垂水)で開催

去る十一月七日、神戸市立水産会館において、第三回日韓漁村婦人生活体験発表会が全国漁業協同組合連合会と韓国水産業協同組合中央会主催(協賛・全国漁協婦人部連絡協議会、釜山山水産業協同組合)釜山山水協婦女会)のもと開催されました。

この発表会は、日韓両国漁村の相互交流と友好親善の促進を通じて日韓漁村の活性化に資するため開催されているもので、今回で第三回目(国内では初開催)となります。

韓国側からは水協中央会国際協力部長 金光泰氏、釜山山水協協理 朴春敏氏および婦人代表十人を含む十三名が来日され、また我が国からは、全漁連の鈴木常務をはじめ全漁連の板田会長はか十五名の都道府県漁協連会長らが出席しました。

第一部の生活体験発表会では、日韓両国漁村婦人より二名ずつの体験発表と意見交換が行われました。

まず、韓国側の釜山市水協婦女会長の鄭成順さんから、「釜山山水協婦女会の活動について」と題して、最も重要な事業の一つである海の浄化運動と一人一通帳運動を中心に発表され、続いて同婦人会の李淑姫さんからは、「韓国漁村の生活とオロヨ(漁ろう)の紹介について」と題し、韓国漁村の生活像と魚を捕りながら歌うオロ



▼神戸市立水産会館の長瀬部が氏を披露

どの紹介には興味深いものがありました。

次に、日本側からとしては、播磨・兵庫県漁協連会長および井野、宮崎県漁協連会長より、それぞれ婦人部の「活動の現状について」の発表がありました。

発表の後、意見交換がもたれ、韓国の婦女会より天然石鹸の成分は何か、あるいは作り方などの質問がござい、我が国と質問がござい、互いに取組む婦人会の皆さんの真剣な討議が印象的でした。

第二部は、懇親・交流会が舞子ビラで開催。日韓相互の婦人が、このとはが通じなくとも手をとりあつたり、歌ったり、踊ったりするなどの、終始和やかな雰囲気が漂うなかで行われました。



▲釜山山水協婦女会の皆さんが歌(アマラン)を披露

第7回 淡路地区漁協連 バレーボール大会開催

淡路地区漁協連主催(会長 播磨よし子)の第七回淡路水交会長杯争奪バレーボール大会が、去る十月十三日(土)、三原町体育館で開催され、各漁協婦人部員の精銳を集めた一七チーム・一五〇余名が参加しました。

まず開会にあたって主催者の播磨会長より挨拶の後、来賓及び系統団体の代表として、社団法人淡路水交会会長および県漁連青藤指導部長よりそれぞれのご挨拶がありました。

続いて、前年度優勝の一宮町江井漁協婦人部二宮良子さんより優勝杯返還の後、沼島漁協婦人部・浅間雄子さんが選手宣誓を行い、

熱戦の火ぶたが切られました。

試合は、日頃の練習成果を競い合い、全力を發揮した様様、セットを重ねることに各人の技術の向上がみられ、セッターとアタッカーのコンビネーションやブロック・フェイントのチャンス攻撃などをみせ、審判をするほう



淡路漁協連バレーボール大会

和気あいあいのうちに大会が終了しましたが、名実ともに親睦と健康管理をかねた楽しい汗を流す大会になりました。

結果、決勝戦には、福良Aチームが二度目の優勝した福良Aチームを流す大会になりました。

惜しくも敗れたチームは、来年に期待し、これからも楽しい練習に励みたいとのことでした。

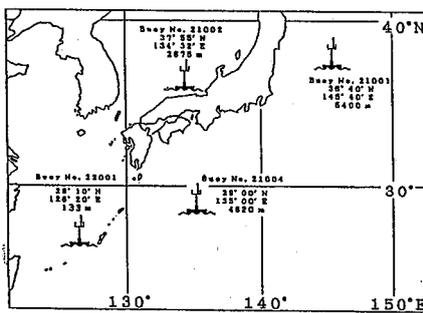
海洋気象フィロボットについて

舞鶴海洋気象台 海上気象課長 藤田 猪五郎

海は地球表面積の約70%を占めています。観測点の少ない海上の気象上、重要な無人観測所が、海洋気象フィロボットです。気象庁では昭和四三年から海洋気象フィロボットの開発試験を始め、昭和四七年度に実用機を製作し、現在まで日本周辺の日本海、東シナ海、四国沖、及び本州東方の四つの海域(図一)で運用し、観測資料は少ない海洋上の貴重なデータとなっています。その海洋気象フィロボットの概要を紹介いたします。

1、海洋気象フィロボットの役割
海洋上の気象観測資料は、海洋気象観測船、調査船、一般船舶及び漁船等の協力により収集・利用されていますが、陸上の観測資料に比べてデータが少なく、その観測資料は船舶の航路や、漁場への往復ルートに偏って集中する傾向があります。また近年の船舶合理化等により夜間に入手できる資料は極めて少なく、しかも台風や発達した低気圧の付近は、船舶が避航するため気象資料の空白域が生じていました。

また蓄積された海洋上の固定点としての資料は、近年世界的に気候変動を集めている気候変動の統計資料としても貴重なものとなっています。報の精度向上に役立ち、



フィロボット配置図(図一)

2、観測資料の利用
●日本海フィロボット(37°55'N, 134°32'E)の観測資料は、日本海で発達する低気圧や冬の季節風、それに伴う豪雪の予報資料として利用されています。

●東シナ海フィロボット(28°10'N, 126°20'E)の観測資料は、台風的位置・進行方向・強弱等の予報資料、梅雨前線の前兆をつかむ資料、東シナ海南部で発達する低気圧や九州・沖縄方面の季節風の予想資料として利用されます。

●四国沖フィロボット(29°00'N, 135°00'E)の観測資料は、台風的位置・進行方向・強弱等の予報資料、梅雨前線の消長の予想資料に利用されています。

●本州東方フィロボット(36°40'N, 145°40'E)の観測資料は、梅雨前線の消長と東日本に直行する台風の予想資料、本州東海上で発達する低気圧や海霧及び、やませ(冷たく湿った北東気流)による北日本の冷害の予想資料に利用されています。

3、構造
海洋気象フィロボットの構造は、世界的に最も実績の多いディスク(円盤)型で直径は約10m、厚さ2m平たい円盤型の鋼鉄で作られています。船体の中央部に約5mのマストが建てられ観測用の各種気象観測器(風速計、風向計、乾湿球温度計、日射計等)と気象衛生中継用の送信アンテナが取付けられています。

●フィロボットの船体には、気象衛生中継用送信装置、電源部(アルカリ電池、空気温度計)、気圧計、波浪計

傾斜計及びロラン受信機等が設置されています。

厳しい海洋上の自然条件の下で、一年に二人無人で観測通報するため、平均風速6.0m/s、海潮流バット、有義波高一五mの環境に耐えられる様に設計されています。

フィロボットの総重量(観測機器とバラストの水を含む)約四八トンあり、色は遠くから明瞭に確認出来るように、赤と黄色で塗り分けられています。またマストの上の部分には、夜になると数秒間隔で点滅する標識灯とレーダー用のフレックター(反射板)が取り付けられており、航海用のレーダーで、(〇マイル)程度で確認することが出来ます。なお船舶の衝突防止のために海図にも記載されています。

4、観測項目
海洋気象フィロボットの観測は、通常グリニッチ時間の0時(日本時間の午前9時)から三時間毎に風向、風速、気温、湿度、気温、水温(深さ2m、50m、100m)波高、波の周期、日射、及びブイの方位と傾斜を自動的に観測します。また毎時一〇分前の平均風速が三五ノットを超えると、自動的に一時間毎の観測を行います。

5、観測資料の伝送システム
海洋気象フィロボットは、観測したデータを気象衛生(ひまわり)の気象資料収集システム(図一)を利用して、気象庁本庁(三時)間または一時間毎に自動通報します。

気象衛生(ひまわり)には、海洋気象観測所、島の気象観測所(南鳥島)、山岳の気象観測所(伊吹山、剣山)、一般船舶、航空機等が観測した気象資料を自動的に収集するシステムがあります。

傾斜計及びロラン受信機等が設置されています。

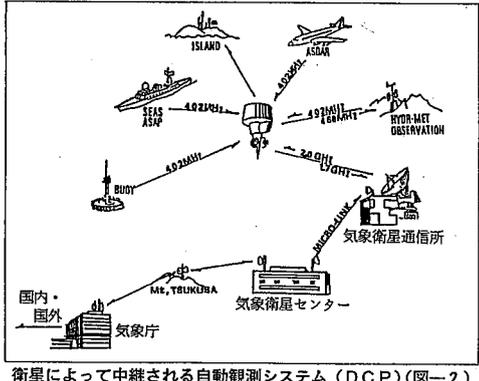
厳しい海洋上の自然条件の下で、一年に二人無人で観測通報するため、平均風速6.0m/s、海潮流バット、有義波高一五mの環境に耐えられる様に設計されています。

フィロボットの総重量(観測機器とバラストの水を含む)約四八トンあり、色は遠くから明瞭に確認出来るように、赤と黄色で塗り分けられています。またマストの上の部分には、夜になると数秒間隔で点滅する標識灯とレーダー用のフレックター(反射板)が取り付けられており、航海用のレーダーで、(〇マイル)程度で確認することが出来ます。なお船舶の衝突防止のために海図にも記載されています。

4、観測項目
海洋気象フィロボットの観測は、通常グリニッチ時間の0時(日本時間の午前9時)から三時間毎に風向、風速、気温、湿度、気温、水温(深さ2m、50m、100m)波高、波の周期、日射、及びブイの方位と傾斜を自動的に観測します。また毎時一〇分前の平均風速が三五ノットを超えると、自動的に一時間毎の観測を行います。

5、観測資料の伝送システム
海洋気象フィロボットは、観測したデータを気象衛生(ひまわり)の気象資料収集システム(図一)を利用して、気象庁本庁(三時)間または一時間毎に自動通報します。

気象衛生(ひまわり)には、海洋気象観測所、島の気象観測所(南鳥島)、山岳の気象観測所(伊吹山、剣山)、一般船舶、航空機等が観測した気象資料を自動的に収集するシステムがあります。



衛星によって中継される自動観測システム(DCP)(図二)

但馬魚便り 17

〈シイラ〉

体は著しく側扁し、平べったい。細長く、微細な円鱗におおわれ、その触った感じが、つるつるとして、背は紺青色をしていて、腹側は黄色を帯びた褐色で、また全体に藍色の斑点がごま塩の如く散在しています。

雄魚は、図にも示したように成長につれ、頭部が張り出し、魚眼が飛び出し、魚眼が飛び出ると判別できます。おでこが出

ているかどうかで容易に雌雄の判別ができる魚です。

シイラは、典型的な表層魚で群をなして回遊します。流れ藻や流木など浮遊物によくく代表的な魚でもあり、また、陰影を求めて集まると言われています。この「魚付き」現象は古い物体の方がよく付くということも判別しており、食物連鎖とも

深く関連しているようです。

調査船が出たときなどは途中でこのような流れ物を見つけると、まず近づいてみます。群がいればはめたもの。船上から視認出来るから早速探針針をつけて、その習性を巧みに利用した方法です。

日本海におけるシイラ漁期は、山口・島根県まで六月中旬〜十月中旬。青森県沿岸では七〜十月。北海道沿岸では八〜九月と北へ行く程短くなっていきます。ここ但馬沖では、六〜十一月にかけて漁獲されますがなかでも七〜十月が盛期で年に五〜十トン程度水揚げさ

なかも特徴的な漁法は「しいら漬け」です。これは人工的な流れ物を海面に浮かべて群を誘い網で囲むという、その習性を巧みに利用した方法です。

日本海におけるシイラ漁期は、山口・島根県まで六月中旬〜十月中旬。青森県沿岸では七〜十月。北海道沿岸では八〜九月と北へ行く程短くなっていきます。ここ但馬沖では、六〜十一月にかけて漁獲されますがなかでも七〜十月が盛期で年に五〜十トン程度水揚げさ

傾斜計及びロラン受信機等が設置されています。

厳しい海洋上の自然条件の下で、一年に二人無人で観測通報のため、平均風速6.0m/s、海潮流バット、有義波高一五mの環境に耐えられる様に設計されています。

フィロボットの総重量(観測機器とバラストの水を含む)約四八トンあり、色は遠くから明瞭に確認出来るように、赤と黄色で塗り分けられています。またマストの上の部分には、夜になると数秒間隔で点滅する標識灯とレーダー用のフレックター(反射板)が取り付けられており、航海用のレーダーで、(〇マイル)程度で確認することが出来ます。なお船舶の衝突防止のために海図にも記載されています。

4、観測項目
海洋気象フィロボットの観測は、通常グリニッチ時間の0時(日本時間の午前9時)から三時間毎に風向、風速、気温、湿度、気温、水温(深さ2m、50m、100m)波高、波の周期、日射、及びブイの方位と傾斜を自動的に観測します。また毎時一〇分前の平均風速が三五ノットを超えると、自動的に一時間毎の観測を行います。

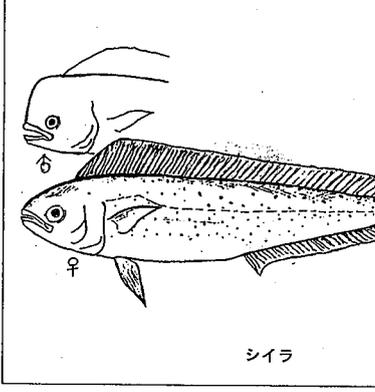
5、観測資料の伝送システム
海洋気象フィロボットは、観測したデータを気象衛生(ひまわり)の気象資料収集システム(図一)を利用して、気象庁本庁(三時)間または一時間毎に自動通報します。

気象衛生(ひまわり)には、海洋気象観測所、島の気象観測所(南鳥島)、山岳の気象観測所(伊吹山、剣山)、一般船舶、航空機等が観測した気象資料を自動的に収集するシステムがあります。

豊かで美しい海や川を！
それがみんなの願いです。

私たちの誓い
合成洗剤は
1. 買わない
2. あげない
3. もらわない

兵庫県漁連・兵庫県漁婦連・漁協



シイラ



シイラ

